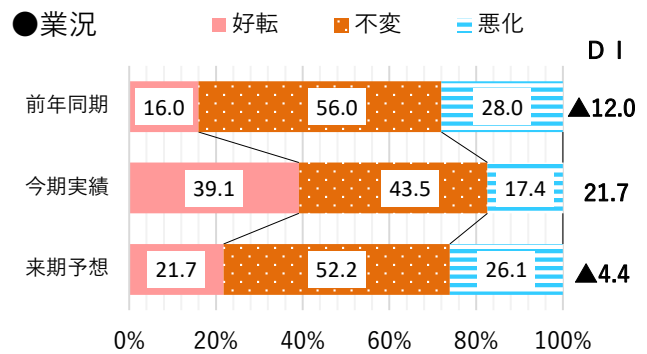


# 小 売 業

## 業況、売上、採算

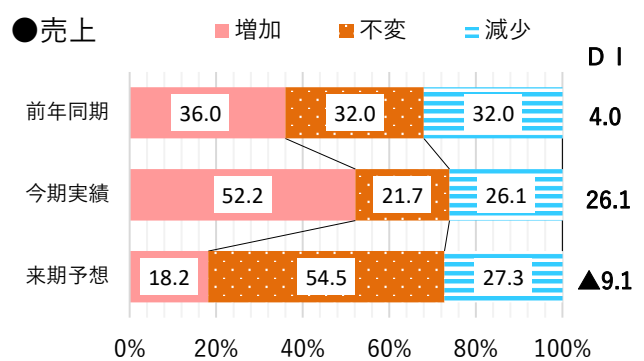
今期(2023.7~9)の業況判断DIは21.7で、前年同期(2022.7~9)と比べ33.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.10~12)は、業況がマイナスに転じると予想しています。



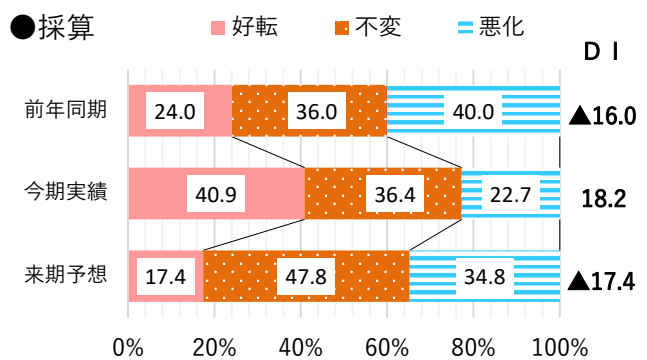
今期の売上高DIは26.1で、前年同期と比べ22.1ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。

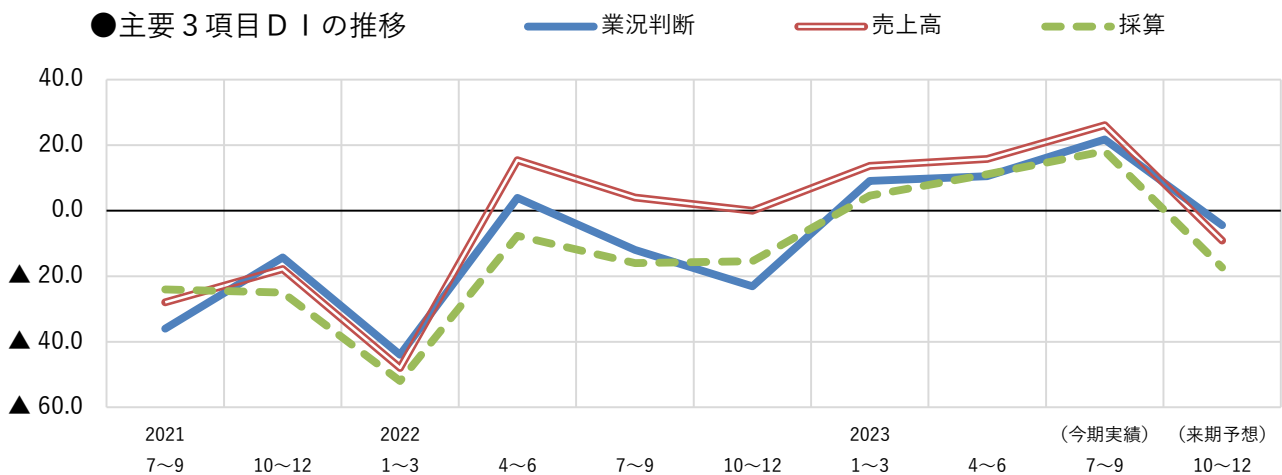


今期の採算DIは18.2で、前年同期と比べ34.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



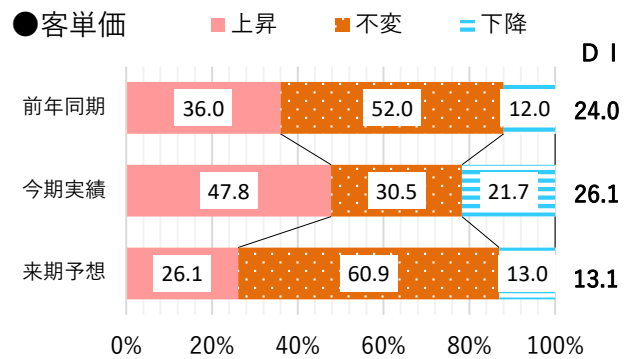
### ●主要3項目DIの推移



客単価、客数

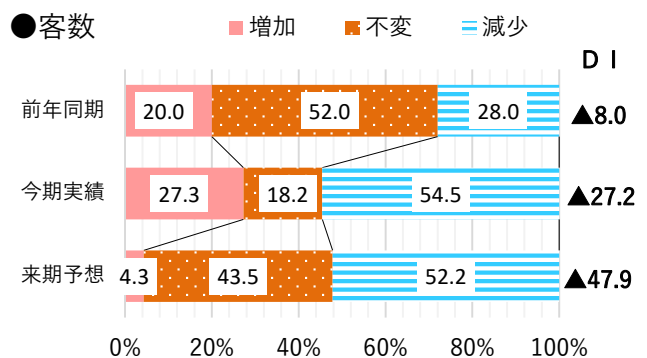
今期の客単価DIは26.1で、前年同期と比べ2.1ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲27.2で、前年同期と比べ19.2ポイント低下しました。

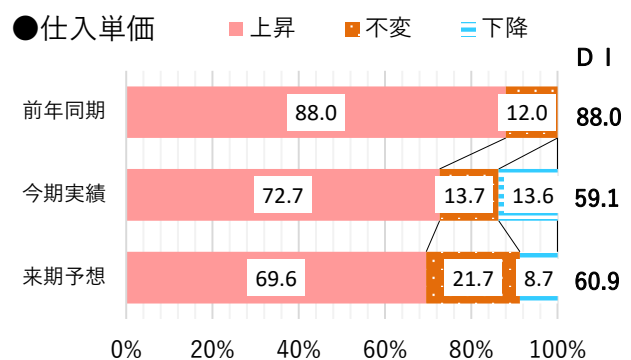
来期は、客数の減少傾向が強まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

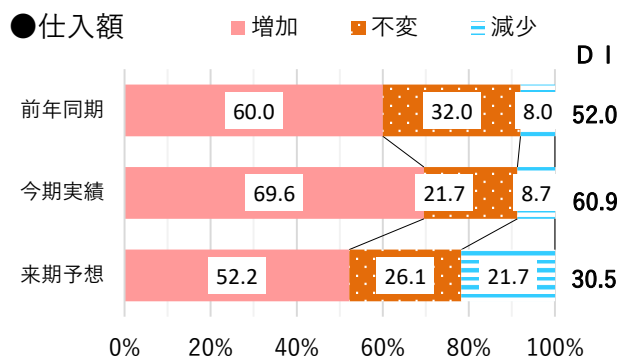
今期の仕入単価DIは59.1で、前年同期と比べ28.9ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



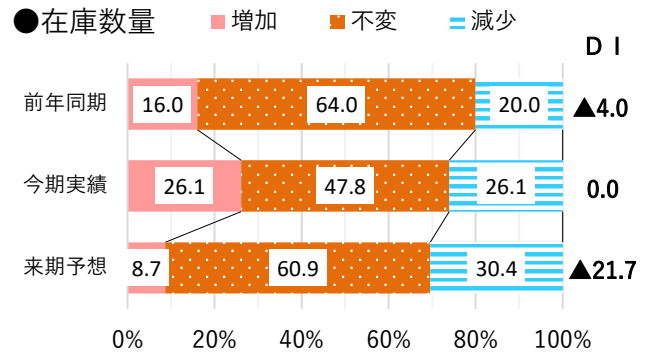
今期の仕入額DIは60.9で、前年同期と比べ8.9ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ4.0ポイントと上昇しました。

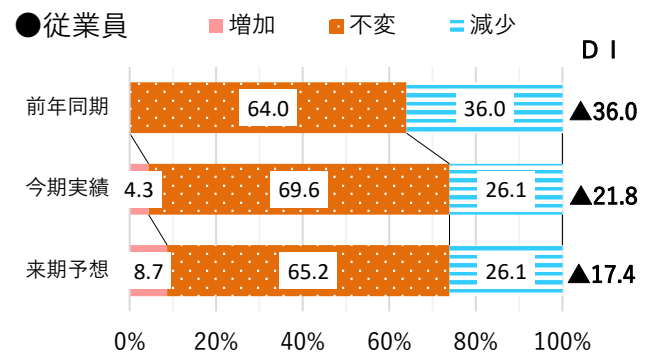
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



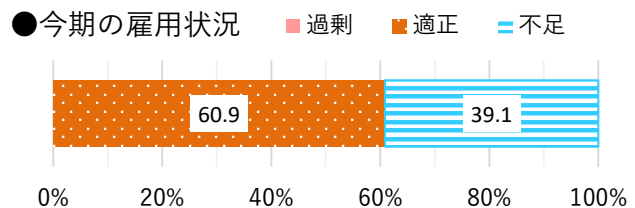
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲21.8で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.9%、不足していると回答した企業の割合は39.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、52.1%を占めています。

小売業全体では、約4割の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	4

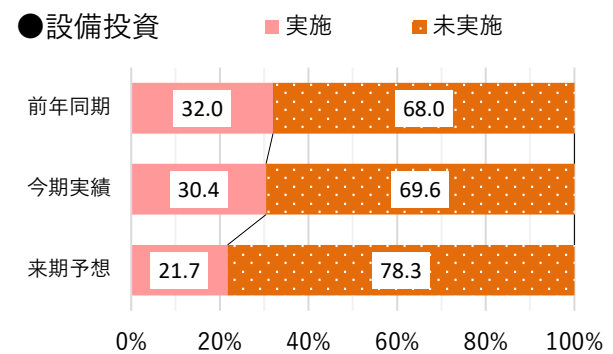
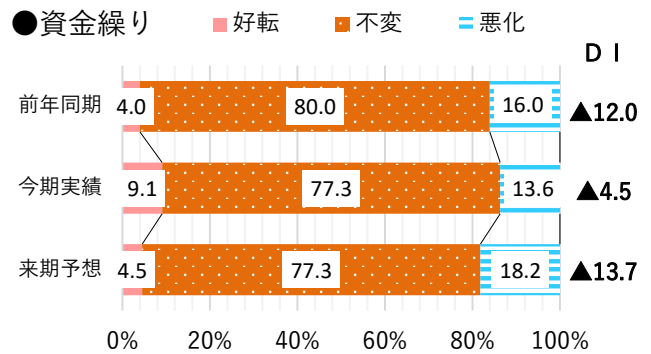
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲4.5で、前年同期と比べ7.5ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。

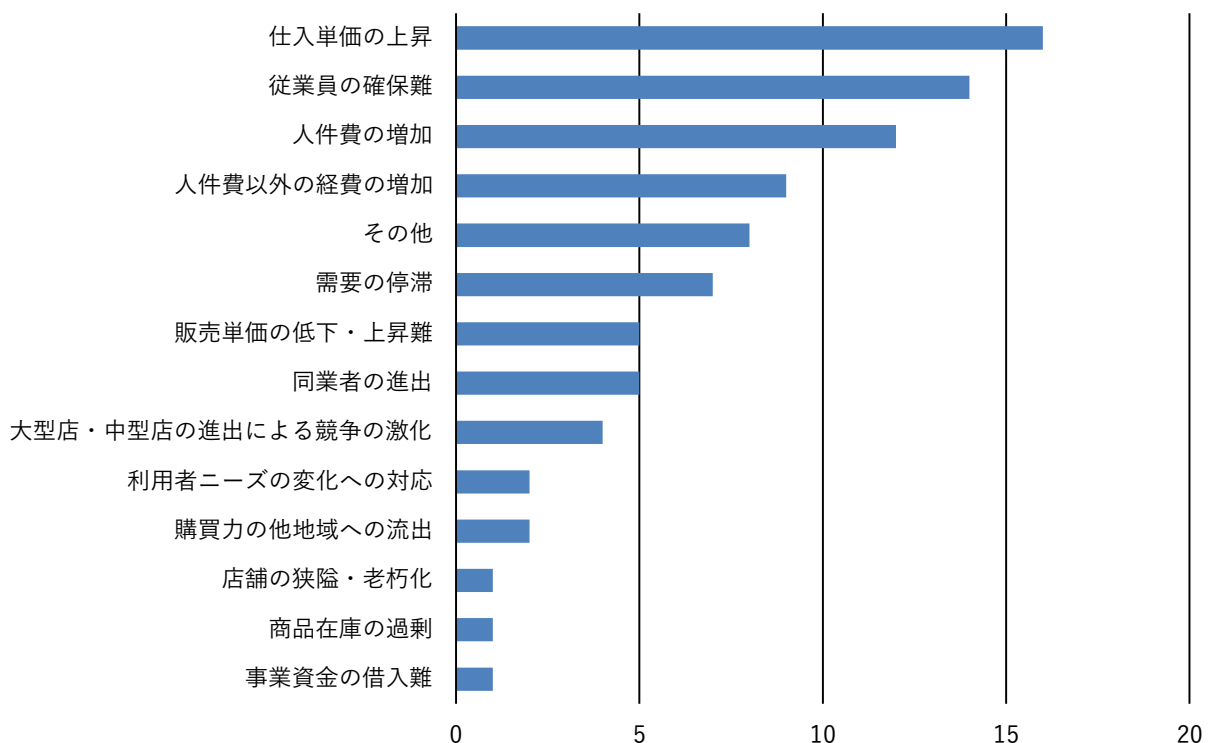
設備投資を実施した企業の割合は30.4%で、前年同期と比べ1.6%低下しました。投資内容は1位が「付帯施設」、2位が「販売設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 売上額はホテル、飲食店向けの納品、店舗販売ともに伸長した。これはコロナウイルスが五類になった影響が大きいと思う。仕入額は酒類が上昇傾向にある。(食料品小売)
- お盆、彼岸があり客数、客単価ともに上向いたが、原材料費や他の経費が上昇しており、利益の増加には至っていないと思われる。(菓子製造小売)
- 人材の確保難が売上の減少につながった。(食肉)
- 食材の値上げにより、身の回り品の購入が減るまたは低価格品への移行が増えている。自社製品で最も売れる価格帯の商品を備蓄している。現在、自己資金内での経営ができています。(衣服・身の回り品)
- 人材確保に苦労している。来年度に向け、ベトナムの技能実習生の採用準備をしている。(自動車)
- 新車の納期が短くなり、中古車の価格が落ち着いてきた。(自動車)
- 突発的で急激な気温上昇により季節商品の需要が増え、業績は好転したが、すぐに手に入る手ごろな価格帯の商品が売上の中心だったため、客単価は上がりきらなかった。(家電量販店)
- 売上の増加により収益が増加した。人員は不足傾向のため給与を調整している。(大型店)
- 需要が高まるお盆商戦が好調で、客単価が上昇し、売上を確保できた。(大型店)
- 売上と業況が安定しない。今期売上は前年同期の実績を割り込んだ。(コンビニ)
- 入店客数と家具の売上が減少した。小樽市内の新築着工件数の減少も影響している。(ホームセンター)
- 原油高、円安により仕入価格が上昇した。それに伴い販売価格を引き上げた。(石油)

## [来期の業況について]

- 米穀は秋の収穫が全国的に不作なため、値上げとなり、販売価格への転嫁が求められる。酒類は今後も値上げ傾向が続くと見られる。(食料品小売)
- 最低賃金の値上げによる経費の上昇、原材料価格の上昇を見込む。(菓子製造小売)
- 人材の確保難、最低賃金の上昇により業況は伸び悩むと思われる。(食肉小売)
- 地元中小企業の倒産ラッシュを予想する。在庫商品の評価や、消費者が求める価格を見誤らないよう努める。銀行借入れをせず、自己資金での経営を続けたい。(衣服・身の回り品)
- ガソリン価格の高騰により、ハイブリッド車や軽自動車への買い替えが増える。(自動車)
- 閑散期のため、売上が減少する。(自動車)
- 今後のことも考え、業績は高水準を維持したい。客単価の引き上げが課題だ。(家電量販店)
- 旬の食材が不足しており、10～11月は厳しい状況が見込まれる。年末商戦に期待する。(大型店)
- 今期と同じく、売上の増加傾向と人材不足が続くと予測している。(大型店)
- 不安定な状況が続くと思われる。(コンビニ)
- 人口減少地域のため、家具の売上には期待できない。(ホームセンター)
- 原油安と円高に移行する目処が立たないため、変わらないと思われる。(石油)